

## 業績目録及び診療実績表

# 業績目録

## ○ 日本救急医学会指導医制度施行細則第6章（業績目録）第14条

指導医の認定を申請する者は、前条第4項に定める業績目録において、制度委員会が定める配点にしたがい、総点数100点以上の救急医学に関する業績を記載しなければならない。ただし、業績については、申請年3月31日までの10年間のものとする。その内訳は、学会発表ならびに誌上発表においてそれぞれ50点以上とする。ただし、日本救急医学会総会での司会・座長は学会発表に含める。

## ○ 日本救急医学会指導医制度施行細則第9章（指導医の更新）第17条第5項

指導医資格取得年の前年の4月1日以降5年間の業績目録

業績目録においては、制度委員会が定める配点に従い、総点数55点以上の業績を記載しなければならない。その内訳は、参加・経験すべき事項10～20点、学会発表25点、誌上発表10～20点とする。なお、日本救急医学会総会での司会・座長、及び指導医セミナーへの参加は、学会発表に含むことができる。ただし、業績に含むことができる指導医セミナーへの参加については、1回（5点）を限度とする。また、誌上発表の中には、日本救急医学会雑誌（JJAAM）・Acute Medicine & Surgery（AMS）を含むことが望ましい。

## ○ 日本救急医学会指導医制度施行細則第9章（指導医の更新）第18条

指導医の更新に当たり、特別の理由により5年間で総点数55点に満たない者は、有効期間満了年の申請期間に、第17条に定める申請書類及び次の各項に定める書類の正本各1通及び副本各7通を、別に定める申請手数料とともに、指導医認定委員会に提出しなければならない。

1. 指導医更新猶予申請書（書式自由）
2. 更新猶予申請理由を証明するもの

## ○ 日本救急医学会指導医制度施行細則第9章（指導医の更新）第19条

前条により、更新猶予が認められた者は、有効期間満了年の2年後の申請期間に、細則第9章17条に定める手続きを取らなければならない。なお、その際提出する業績目録においては、指導医資格取得年の前年の4月1日から7年間で総点数55点以上の業績の記載及び、日本救急医学会総会・学術集会への5回以上の参加履歴を記載しなければならない。ただし、業績に含むことができる指導医セミナーへの参加については、2回（10点）を限度とする。  
\*指導医セミナーを業績に含むことができるのは、単年度につき1回（5点）を限度とする。

## 指導医認定における業績目録の配点と提出資料

指導医認定に必要な業績目録の配点を以下の通りとする。

### 1. 学会発表（救急医学に関する発表）

日本救急医学会総会	10点
日本救急医学会地方会	5点
日本医学会総会及び救急医学に関連する日本医学会分科会* <sup>1</sup> （地方会は除く）	5点
その他の救急医学に関連する学会・研究会* <sup>2</sup> （地方会は除く）	5点
日本臨床救急医学会総会	7点

国際的学術集会についての採否ならびに配点は指導医認定委員会が決定する。  
共同演者については、その得点を全演者の人数で除した点数を与える。

#### \*<sup>1</sup> 日本医学会総会及び救急医学に関連する日本医学会分科会（地方会は除く）

日本医学会総会	日本内科学会	日本小児科学会	日本循環器学会
日本外科学会	日本整形外科学会	日本麻酔科学会	日本胸部外科学会
日本脳神経外科学会	日本形成外科学会	日本小児外科学会	日本消化器外科学会
日本職業・災害医学会	日本心臓血管外科学会	日本集中治療医学会	日本脳卒中学会
日本感染症学会	日本血栓止血学会	日本消化器内視鏡学会	

#### \*<sup>2</sup> その他の救急医学に関連する学会・研究会（地方会は除く）

日本中毒学会	日本熱傷学会	日本腹部救急医学会	日本臨床外科学会
日本脳死脳蘇生学会	日本外傷学会	日本救命医療学会	日本集団災害医学会
日本小児救急医学会	日本神経救急学会	日本脳神経外科救急学会	日本交通科学学会
日本 Shock 学会	日本航空医療学会	日本蘇生学会	日本精神科救急学会

### 2. 司会・座長 他

日本救急医学会総会のシンポジウム、パネルディスカッション等の司会	10点
日本救急医学会総会の一般演題座長	5点
日本救急医学会指導医セミナー参加*（更新時のみ）	5点

\*指導医セミナーの業績は1回（5点）を限度とする。ただし、更新猶予が認められた者は、細則第19条の規定に従うものとする。なお、単年度に複数回参加しても、業績として加点できるのは1回分（5点）とする。

### 3. 誌上発表（救急医学に関する論文）

原著論文	10点
その他の論文	5点

日本救急医学会雑誌・Acute Medicine & Surgery 掲載論文は2倍の配点とする。  
英文論文については雑誌等を検討し、2倍以内で配点することができる。  
共同執筆者については、その点数を執筆者の人数で除した点数を与える。  
看護雑誌等の論文は、筆頭執筆者のみ1/2の配点とする。

#### 4. 提出資料

1. 指導医の新規申請時には、業績目録の記載事項を証明できる、以下のものを申請時に提出しなければならない。
  - ・学会発表においては、その抄録（抄録集よりのコピー可）。
  - ・司会・座長は、日本救急医学会総会のシンポジウム・パネルディスカッション・ワークショップ・一般演題のプログラム（コピー可）。
  - ・誌上発表においては、その別刷（コピー可）。
2. 指導医の更新時には、上記4に定める資料の提出の必要はない。ただし、無作為に抽出された申請者は、業績目録を証明する全資料を提出しなければならない。

## 診療実績表

### ○ 日本救急医学会指導医制度施行細則第7章第15条

指導医の認定を申請する者は、細則第5章第13条第5項に定める指導医診療実績表において、制度委員会が定める321点の配点に従い、総点数において240点以上の実績を記載しなければならない。ただし、診療実績については、申請年3月31日までの10年間のものとする。その内訳は、[A]において72点以上、[B]において36点以上、[C]において60点以上、[D]において10点以上とする。

## 診療実績表について

1. 診療実績表は以下の項目からなる。

[A] 経験すべき疾患（外来での経験も可とする）

1. 内因性疾患 2. 外因性疾患

[B] 経験すべき病態（外来での経験も可とする）

[C] 経験すべき手技

1. 検査手技 2. 治療手技 3. ERでの診療指導

[D] 参加・経験すべき事項

2. 配点（配点は以下の基準による。）

[A] 経験すべき疾患

[B] 経験すべき病態については、

a) 主たる受け持ちとして直接診療に当たったもの1点

b) 従たる受け持ちとして診療に参加したもの0.5点とする。

[C] 経験すべき手技

1. 2. については、a) 術者1点 b) 助手0.5点とする。

3. については、1症例につき1点とする。

[D] 参加・経験すべき事項については、1回の参加・経験につき1点とする。

3. 各項目における症例の記入は、その項目に定められた点数に達するまでとする。

4. [A] [B] については、申請者の診療開始ならびに終了の年月日を記入する。

なお、最終転帰は診療終了時の状態（治癒、軽快、不変、増悪、死亡）を記入する。

5. [C] 1. 2. については、実施年月日を記入し、[C] 3. については、最終転帰も記入する。

6. [D] については、実施・参加年月日を記入し、証明書類（参加証・認定証等）を必ず添付する。

7. 一人の申請者が、[A] [B] [C] の各大項目に同一症例を重複して使用することができる。

8. [A] [B] については、1症例につき、主たる受け持ち1名・従たる受け持ち1名までが、その症例を使用できる。同一症例を[A]ならびに[B]の同じ大項目の中で2回以上使用してはならない。

9. [C] については、同一症例を行ったすべての手技について使用することができる。

## 診療実績表記入例

[A] 経験すべき疾患（外来での経験も可とする）

番号	病院名(6号記載) 患者年齢・性別	傷病名 詳細を記入すること	診療開始 年月日*	診療終了 年月日*	最終 転帰	点数	所属 長印
----	----------------------	------------------	--------------	--------------	----------	----	----------

1. 内因性疾患（60点取得合計点数）

1) 神経系疾患（12点）取得合計点数：           点

◎脳内出血（3点）

A1	〇〇大病院 48歳 男	左被核出血・脳室内穿破	02/9/1	02/9/25	軽快	1	㊟
A2	〇〇大病院 36歳 女	小脳出血	02/2/12	02/9/15	死亡	0.5	㊟
A3	××病院 69歳 男	右視床出血	02/9/3	02/9/12	不変	0.5	㊟
A4							
A5							

\*申請者の診療期間について記入すること

[B] 経験すべき病態（外来での経験も可とする）

番号	病院名(6号記載) 患者年齢・性別	傷病名 詳細を記入すること	診療開始 年月日*	診療終了 年月日*	最終 転帰	点数	所属 長印
----	----------------------	------------------	--------------	--------------	----------	----	----------

8) 敗血症（7点）取得合計点数：           点

B 105	〇〇大病院 18歳 男	骨盤骨折・右肺挫傷・右血気胸 カテーテル敗血症	02/9/6	02/9/22	軽快	1	㊟
B 106	〇〇大病院 21歳 女	腓挫傷・腹膜炎による敗血症	02/9/24	02/10/23	死亡	0.5	㊟
B 107	××病院 78歳 男	出血性胃潰瘍・パーキンソン病 原因不明の敗血症	02/10/10	02/10/25	死亡	1	㊟
B 108							

\*申請者の診療期間について記入すること

[C] 経験すべき手技

番号	病院名(6号記載) 患者年齢・性別	傷病名 手技・術式	実施年月日	術者 助手	点数	所属 長印
----	----------------------	--------------	-------	----------	----	----------

2. 治療手技

3) 手術手技 (31点) :           点

d) 腹部の手術 (13点)

◎その他の急性腹症の手術 (1点)

	病院名(6号記載) 患者年齢・性別	傷病名 手技・術式	実施年月日	術者 助手	点数	所属 長印
C 153	〇〇病院 50歳 女	腸間膜動脈血栓症・汎発性腹膜炎 小腸大量切除・腹腔ドレナージ	02/9/1	術者	1	
C 154						

3. ERでの診療指導

一見軽症に見えて実は重篤であった症例 (13点)

	病態・主訴	病院名(6号記載) 患者年齢・性別	実施 年月日	最終 診断	診断に至った過程 (検査・手技)	最終 転帰	点数	所属 長印
C 201	① 早期の ショック	〇〇病院 65歳 男	12/10/10	熱中症	中枢温測定、 検査データ	入院	1	㊟
C 202	② 意識障害							

[D] 参加・経験すべき事項

2) 教育

2) -6 JATECの受講と指導 (4点) 取得合計点数:           点

	参加・経験した事項	実施・参加年月日	点数
D16	平成25年第1回JATECコース受講	03/4/5 03/4/6	1
D17			

証明書類 (参加証・認定証等) を必ず添付すること



## 診療実績配点表

### ◎総配点

指導医診療実績表

合計 321点

[A]経験すべき疾患(外来での経験も可とする)			120
1. 内因性疾患			60
1)神経系疾患	12		
2)心血管系疾患	13		
3)呼吸器系疾患	9		
4)消化器系疾患	10		
5)泌尿・生殖器系疾患	4		
6)代謝内分泌系疾患	4		
7)重症感染症	4		
8)精神疾患	2		
9)その他の内因性疾患	2		
2. 外因性疾患			60
1)外傷	39		
a)多発外傷	8		
b)頭部外傷	5		
c)顔面・頸部外傷	2		
d)胸部外傷	8		
e)腹部外傷	8		
f)四肢・脊椎・骨盤外傷	6		
g)泌尿・生殖器外傷	2		
2)急性中毒	6		
3)熱傷	7		
a)広範囲熱傷	6		
b)化学損傷・電撃傷など	1		
4)その他	8		
a)溺水・窒息	2		
b)特殊感染症	2		
c)環境障害	2		
d)刺・咬傷	1		
e)異物(気道・食道)	1		

[B] 経験すべき病態(外来での経験も可とする)				60
1)CPAOA		6		
2)ショック		16		
3)急性呼吸不全		8		
4)急性腎不全		6		
5)急性肝不全		3		
6)DIC		5		
7)多臓器不全		8		
8)敗血症、重症感染症		6		
9)脳 死		2		

[C] 経験すべき手技				113
1. 検査手技			24	
1)放射線診断		12		
2)内視鏡検査		5		
3)超音波検査法		5		
4)循環動態測定		2		
2. 治療手技			76	
1)心肺(脳)蘇生法		10		
2)患者管理のための処置		26		
3)手術手技		31		
a)頭・頸部の手術	6			
b)脊椎・脊髄の手術	1			
c)胸部の手術	4			
d)腹部の手術	13			
e)四肢の手術	4			
f)その他	3			
4)麻 酔		9		
a)全身麻酔	5			
b)伝達麻酔	4			
3. ERでの診療指導			13	
① 早期のショック		1		
② 意識障害		1		
③ 失神		1		
④ めまい		1		
⑤ 運動麻痺		1		
⑥ 頭痛		1		
⑦ 痙攣		1		
⑧ 呼吸困難		1		
⑨ 胸痛		1		
⑩ 腰・背部痛		1		
⑪ 動悸		1		
⑫ 喀血・吐下血		1		
⑬ 腹痛		1		

1)臨床				
-1 救急部門の運営		1		
-2 院内救急体制への関与		1		
-3 脳死判定・臓器移植への関与		1		
-4 災害現場への出動・支援		1		
2)教育				
-1 臨床研修への関与		1		
-2 救急外来でのトリアージに関わる指導		1		
-3 研修医に対する初期診療の指導		1		
-4 災害訓練・講習会への参加		1		
-5 救急蘇生に関わる講習会の受講と指導		4		
-6 JATECの受講と指導		4		
3)地域貢献				
-1 メディカルコントロール協議会への参画、救急救命士等への院内外での指導		4		
-2 救急救命士等へのオンライン指示・指導		4		
-3 地域の救急業務懇話会や救急救命士等の発表会への参加と指導		4		

◎各配点

[A] 経験すべき疾患(外来での経験も可とする)					120
1. 内因性疾患				60	
1) 神経系疾患			12		
a) 脳血管障害		8			
① 脳出血		6			
脳内出血	3				
くも膜下出血	3				
② 脳梗塞(脳塞栓、脳血栓など)		2			
b) てんかん発作		1			
c) 脳・髄膜炎		2			
d) その他 (脊髄疾患(Guillain-Barre 症候群など)、脳腫瘍(下垂体卒中など)、重症筋無力症など)		1			
2) 心血管系疾患				13	
a) 虚血性心疾患 (心筋梗塞、狭心症など)		3			
b) うっ血性心不全		2			
c) 致死的不整脈 (心室性頻拍、心室細動、心室性期外収縮など)		3			
d) その他の不整脈 (上室性頻拍、洞性徐脈、房室ブロック、心房細動、上室性期外収縮、洞性頻脈、発作性頻拍、Adams-Stokes 症候群など)		2			
e) その他の心疾患 (先天性心疾患、弁膜症の急性増悪、心筋炎、ジキタリス中毒など)		1			
f) 血管系疾患 (胸腹部大動脈瘤、急性動脈閉塞症、静脈血栓症、急性大動脈解離など)		2			

3)呼吸器系疾患			9		
a)気管支喘息発作			3		
b)肺 炎			2		
c)慢性閉塞性肺疾患(COLD)急性増悪			2		
d)その他 (胸膜炎、自然気胸、大量喀血、 急性咽頭浮腫、過換気症候群 など)			2		
4)消化器系疾患			10		
a)急性腹症			4		
① 消化管穿孔 (胃・十二指腸穿孔など)		2			
② 汎発性腹膜炎 (急性胆嚢炎、急性膵炎、虫垂炎 など)		2			
b)消化管出血 (胃・十二指腸潰瘍、胃癌、直腸癌、 食道静脈瘤、Mallory-Weiss 症候群 など)			3		
c)イレウス (絞扼性イレウス、腸重積など)			2		
d)その他			1		
5)泌尿・生殖器系疾患			4		
a)泌尿器系救急疾患 (尿路結石、水腎症、腎盂腎炎、腎 炎など)			2		
b)生殖器系救急疾患 (子宮外妊娠、卵巣嚢腫茎捻転、卵 巣出血、付属器炎、流産、精索捻 転など)			2		
6)代謝内分泌系疾患			4		
a)糖尿病性昏睡			2		
b)その他 (低血糖性昏睡、甲状腺クリーゼ、 急性副腎不全など)			2		
7)重症感染症 (重症肺炎、劇症肝炎など)			4		
8)精神疾患 (精神病(統合失調症、躁鬱病)など)			2		
9)その他の内因性疾患 (血液疾患、免疫疾患など)			2		

2. 外因性疾患				60		
1) 外傷			39			
a) 多発外傷		8				
b) 頭部外傷		5				
① 頭蓋内血腫 (脳内出血血腫、急性硬膜外血腫、急性硬膜下血腫など)	3					
② 脳挫傷	2					
c) 顔面・頸部外傷		2				
① 顔面外傷	1					
② 頸部外傷 (頸部食道、気管、血管損傷など)	1					
d) 胸部外傷		8				
① 胸部開放創 (Sucking chest woundなど)	1					
② 多発肋骨骨折	1					
③ Flail chest	1					
④ 緊張性気胸	1					
⑤ 血気胸	1					
⑥ 肺挫傷	1					
⑦ その他 (気管支損傷、食道損傷、大血管損傷、心破裂、心筋挫傷、心タンポナーデ、横隔膜損傷など)	2					
e) 腹部外傷		8				
① 腹部穿孔創	2					
② 消化管穿孔(破裂)、腸間膜損傷	2					
③ 肝・胆道損傷	2					
④ 脾損傷	1					
⑤ 膵・十二指腸損傷	1					
f) 四肢・脊椎・骨盤外傷		6				
① Degloving損傷、四肢切断	1					
② その他の四肢外傷 (四肢の脱臼・骨折、四肢動脈損傷、挫滅症候群など)	2					
③ 脊椎外傷 (脊椎脱臼・骨折、脊髄損傷)	1					
④ 骨盤外傷 (骨盤骨折など)	2					
g) 泌尿・生殖器外傷		2				
① 腎損傷	1					
② その他 (尿道損傷、膀胱破裂、会陰・外陰部損傷など)	1					
2) 急性中毒 (医薬品中毒、アルコール中毒、農薬中毒、ガス中毒など)			6			
3) 熱傷			7			
a) 広範囲熱傷(Burn index > 15)			6			

b)化学損傷、電撃傷など			1			
4)その他				8		
a)溺水、窒息			2			
b)特殊感染症 (破傷風、ガス壊疽など)			2			
c)環境障害 (熱中症、低体温症、酸欠症、減圧 症など)			2			
d)刺・咬傷(蛇咬傷など)			1			
e)異物(気道、食道など)			1			

<b>[B]経験すべき病態(外来での経験も可とする)</b>					<b>60</b>
1)CPAOA				6	
2)ショック				16	
a)低容量性ショック			5		
b)心原性ショック			4		
c)血液分布不均衡ショック			5		
d)閉塞性ショック			2		
3)急性呼吸不全 人工呼吸管理を行ったもの (ARDS、嚥下性肺炎、無気肺、肺水腫、肺梗塞など)				8	
4)急性腎不全(血液浄化療法を行ったもの)				6	
5)急性肝不全(血液浄化療法を行ったもの)				3	
6)DIC				5	
7)多臓器不全				8	
8)敗血症、重症感染症 (多剤耐性菌感染症、輸入感染症などを含む)				6	
9)脳死(臨床的脳死判定を行ったもの)				2	

[C] 経験すべき手技						113
1. 検査手技					24	
1) 放射線診断				12		
a) 消化管造影			2			
b) 血管造影・塞栓術 (脳血管造影、腹部・骨盤血管造影、 大血管造影、心臓カテーテル法 など)			6			
c) 泌尿器系造影 (腎盂・尿管造影、尿道・膀胱造影 など)			2			
d) CT、MRI			2			
2) 内視鏡検査 (上部消化管内視鏡、気管支鏡など)				5		
3) 超音波検査法 (腹部超音波検査、心超音波検査 など)				5		
4) 循環動態測定(心拍出量測定など)				2		
2. 治療手技					76	
1) 心肺(脳)蘇生法 (ACLSの手技に限る)				10		
2) 患者管理のための処置				26		
a) Swan-Ganzカテーテルの挿入			2			
b) 心嚢穿刺・ドレナージ			2			
c) 緊急ペーシング			2			
d) 胸腔ドレナージ			2			
e) 腹腔洗浄のためのカテーテル挿入			2			
f) 内視鏡的気管内洗浄			2			
g) 内視鏡的止血術			2			
h) 急性血液浄化法			2			
i) 頭蓋内圧(ICP)センサー挿入			2			
j) 脱臼・骨折の牽引療法			2			
k) 減張切開			2			
l) IABP			2			
m) PCPS			2			
3) 手術手技				31		
a) 頭・頸部の手術			6			
① 穿頭術、脳室ドレナージ、 VPシャント		2				
② 陥没骨折整復		1				
③ 開頭脳内血腫除去 (脳内硬膜外・硬膜下血腫除去 など)		1				



④ 気管切開		1			
⑤ その他の頭頸部手術		1			
b) 脊椎・脊髄の手術			1		
c) 胸部の手術			4		
① 開胸術 (肺切除、肺縫合、気管・気管支縫合、心大血管損傷修復など)		2			
② その他の胸部手術 (開胸心マッサージ、肋骨骨折固定、横隔膜縫合など)		2			
d) 腹部の手術			13		
① 急性腹症の手術		6			
消化管穿孔の手術	2				
消化管出血の手術	1				
腹腔内炎症性疾患の手術 (虫垂切除、胆嚢摘出など)	1				
イレウス根治術	1				
その他の急性腹症の手術	1				
② 腹部外傷の手術		6			
脾損傷の手術(脾臓摘出など)	1				
肝損傷の手術 (肝切除、肝縫合など)	1				
腸管・腸間膜損傷の手術 (腸切除、結腸切除、消化管吻合など)	1				
脾損傷の手術	1				
腎損傷の手術 (腎摘出術、腎部分切除など)	1				
その他の腹部外傷の手術 (血管損傷、試験開腹、横隔膜縫合など)	1				
③ その他 (胃瘻造設、腸瘻造設、人工肛門造設など)		1			
e) 四肢の手術			4		
① 四肢骨折の手術		2			
② その他の四肢の手術 (四肢血管吻合術、切断肢再接着など)		2			
f) その他			3		
① 汚染創のデブリドマン		1			
② 熱傷創の手術 (焼痂切開、創切除、植皮など)		2			
4) 麻酔			9		
a) 全身麻酔			5		
b) 伝達麻酔 (腋窩神経ブロック、上腕神経ブロック、肋間神経ブロック、腰椎麻酔、硬膜麻酔など)			4		
3. ERでの診療指導				13	
① 早期のショック			1		
② 意識障害			1		
③ 失神			1		

④ めまい				1		
⑤ 運動麻痺				1		
⑥ 頭痛				1		
⑦ 痙攣				1		
⑧ 呼吸困難				1		
⑨ 胸痛				1		
⑩ 腰・背部痛				1		
⑪ 動悸				1		
⑫ 喀血・吐血				1		
⑬ 腹痛				1		

[D]参加・経験すべき事項			28
1)臨床			
-1 救急部門の運営		1	
-2 院内救急体制への関与		1	
-3 脳死判定・臓器移植への関与		1	
-4 災害現場への出動・支援		1	
2)教育			
-1 臨床研修への関与		1	
-2 救急外来でのトリアージに関わる指導		1	
-3 研修医に対する初期診療の指導		1	
-4 災害訓練・講習会への参加		1	
-5 救急蘇生に関わる講習会の受講と指導		4	
-6 JATECの受講と指導		4	
3)地域貢献			
-1 メディカルコントロール協議会への参画、救急救命士等への院内外での指導		4	
-2 救急救命士等へのオンライン指示・指導		4	
-3 地域の救急業務懇話会や救急救命士等の発表会への参加と指導		4	